

都市再生整備計画 事後評価シート

井波地区

平成27年3月

富山県 南砺市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	富山県	市町村名	南砺市	地区名	井波地区			面積	191.5
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	1,133 百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名				
		基幹事業	都市計画道路整備事業(1路線)、地域生活基盤施設(駐車場1箇所)、高質空間形成施設(消雪施設7路線、修景舗装1路線)			
	提案事業	イベント活用事業、事後評価分析				
	事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(駐車場1箇所)		長期化している都市計画道路谷今町線(関連事業)と併せて整備するため削除	「観光客数」及び「イベント参加者数」の指標に関係するが、他の要因で変動する可能性もあるため、数値目標は据え置く。	
新たに追加した事業	提案事業	なし				
当初計画から削除した事業	基幹事業	市道改良事業(4路線)、高質空間形成施設(消雪施設5路線)		＜市道改良事業＞ 都市計画道路谷今町線の取付道路等として追加整備 ＜消雪施設＞ 居住環境の向上を図るため、整備路線を追加	「地区内居住人口の変動率」の指標に関係するが、他の要因で変動する可能性もあるため、数値目標は据え置く。	
新たに追加した事業	提案事業	なし				
交付期間の変更	当 初	平成21年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		
	変 更	同上				

指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定期間
								目標達成度	達成見込み	
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1 観光客数	人／年	10万	H19	11万	H25	△	あり	●	平成28年4月
								なし		
	指標2 イベント参加者数	人／年	6万	H19	7万	H25	△	あり	●	平成28年4月
								なし		
	指標3 地区内居住人口の変動率	%	-6.7	H15～H20	-6.5	H20～H25	×	あり		-
								なし	●	
指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定期間
指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値			都市計画道路整備により市街地の安全性、防		

3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	防災に資する道路の整備延長	km	2.5	H19			3.0			他の沿岸道路整備により市街地の安全は、耐震性が良くなり、生活環境の向上につながっている。	-
	その他の数値指標2	消雪施設整備延長	km	16.2	H19			18.2			消雪施設整備により冬季間の円滑な通行が確保される地区が増え、居住環境が向上している。	-
	その他の数値指標3	まちづくり活動等への参加者数	人／年	-	H19			500			H24、H25の2年間に実施されたイベント支援事業に多くの参加があり、住民のまちづくりへの意識・関心の高さがうかがえた。	-

4)定性的な効果 発現状況	事業当初にまちづくり協議会の設立があった。
------------------	-----------------------

		実施内容	実施状況	今後の対応方針等
5)実施過程の評価	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた	-
	住民参加プロセス	街路事業に関する説明会開催や景観舗装による舗装の選定等に住民と十分な協議を重ね整備を行う。 イベント補助を行い、新規イベントや従来のイベントの増強を図る。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた	● 今後も地域住民と協議を行いより良い環境となるよう整備を進める。
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた	-

様式2-2 地区の概要

井波地区(富山県南砺市) 都市再生整備計画事業の成果概要

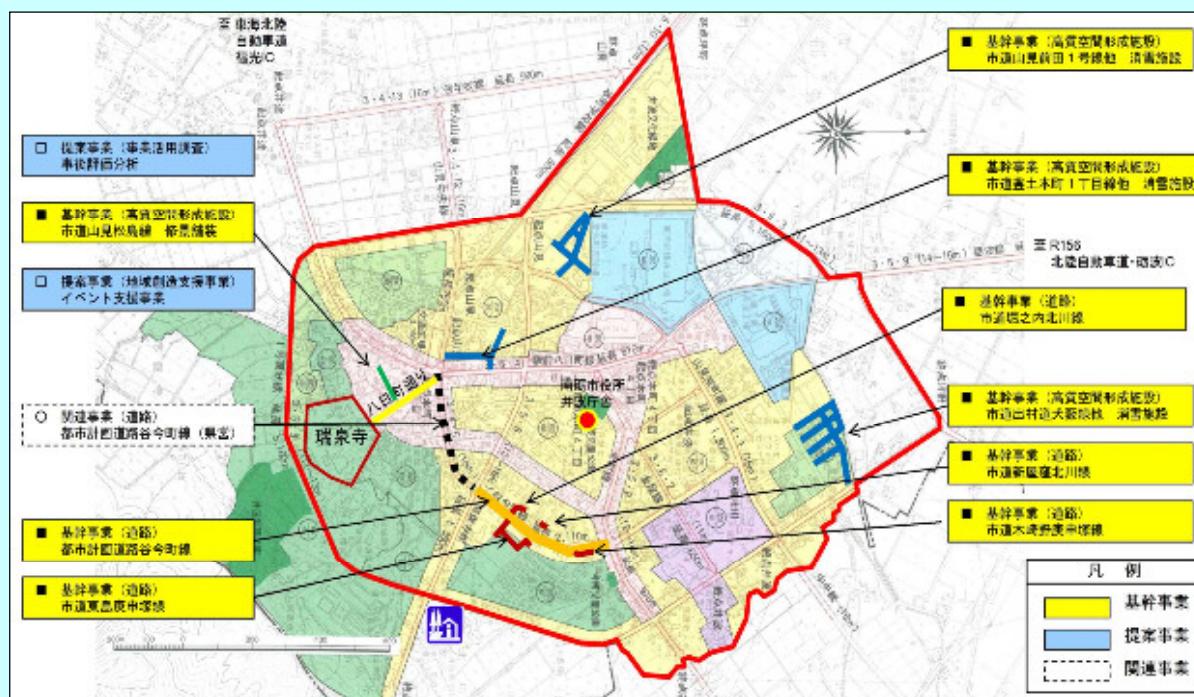
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
安全・安心な生活環境整備による定住人口の安定化と交流人口の増加	観光客数	単位:人／年	10万	H19	11万	H25	9万	H25
	イベント参加者数	単位:人／年	6万	H19	7万	H25	3万	H25
	地区内居住人口の変動率	単位:%	-6.7	H15～H20	-6.5	H20～H25	-8.8	H20～H25
		単位:		H	H	H	H	H
		単位:		H	H	H	H	H



(都) 谷今町線の整備と沿線宅地化状況



(都) 谷今町線・市道堀之内北川線の整備



(都) 谷今町線・市道木崎野庶申堀線の整備



市道犬森坪野2号線（消雪施設）の整備

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や消雪施設の整備、都市計画道路沿線の宅地開発など良好な都市基盤の整備が進められてきたが、新たな居住者は少なく、人口減少傾向が続いている。 ・高齢者への生活サポートとして医療・福祉機能の充実などが求められる。 ・観光地へのアクセスルートとなる都市計画道路（関連事業）の整備が長期化しており、アクセス環境や周遊環境が十分に確保されていない。 ・観光客の受け入れとして、まち全体のおもてなし意識の向上などソフト面の充実も必要となっている。
今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・居住環境のさらなる向上に向けて、未整備となっている都市計画道路や消雪施設などの基盤施設の計画的整備を推進する。 ・都市居住の推進に向けて、需要に応じた宅地開発を進めるとともに、定住支援制度の充実・周知を図る。 ・高齢者への生活サポートとして、市街地内への医療・福祉機能の集積、主要施設・周辺地域を連絡する公共交通機関の充実を図る。 ・観光地へのアクセス環境の向上に向けて、都市計画道路谷今町線（県當区間）の整備を推進するとともに、八日町通り付近における観光用駐車場の充実に努める。 ・観光地としての魅力度・周遊環境の向上に向けて、景観舗装整備、無電柱化などの景観整備や空き店舗等の利活用検討、魅力ある飲食・体験等の商品開発を図る。 ・交流人口増加に向けたソフト的取り組みとして、イベント支援事業の継続や観光地の情報発信・プロモーション活動の充実、おもてなしの向上を図る。